

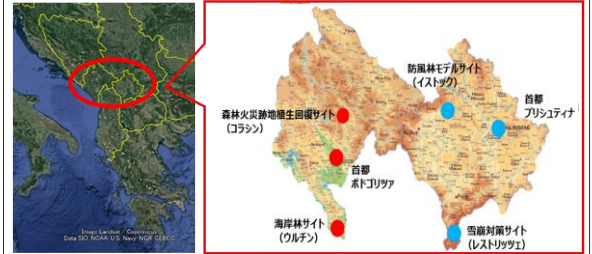
NFFIS & Eco-DRR Newsletter

Project on Capacity Building for Disaster Risk Reduction through
National Forest Fire Information System (NFFIS) and Eco-DRR
Mar 2021 - Feb 2026

国家森林火災情報システム（NFFIS）とEco-DRRによる災害リスク削減のための能力強化プロジェクト

本プロジェクトの目的は、森林火災及びその他自然災害の防災・減災にかかる政府関係者の能力がNFFIS及び生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）の導入を通じて強化されることです。

Vol10では、2025年7-2026年1月の活動を報告いたします。



コンボ・モンテネグロの首都とプロジェクトサイトの位置

成果報告会



国際防災の日、本プロジェクトはポドゴリツァにおいて、最終イベント「リスクからレジリエンスへ：プロジェクトの成果と今後の展望」を開催しました。

本イベントには、プロジェクトのカウンターパートや関係者が集まり、「モンテネグロ森林火災情報システム（MEFFIS）」および「生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）」の主要な成果が共有されました。特に、拡張したMEFFISのプレゼンテーションが注目を集めました。このシステムは、森林火災やその他の自然災害に対するモンテネグロの予防、監視、および対応能力を強化するものです。また、Eco-DRR活動の紹介が行われ、生態系を基盤とした解決策がいかに災害リスクの軽減と気候変動への適応力（レジリエンス）に寄与するかが示されました。

JICA専門家チーム（JET）と保護救助局（RPD）は、これらの成果を可能にした強固なパートナーシップと協力関係の成功を強調しました。その上で、持続可能な災害リスク管理のためには今後も連携を継続することが重要であると訴えました。

また、記念式典の一環として、複数の小学校の児童を対象とした表彰式が執り行われました。児童たちは、防災、環境保護、地域のレジリエンスをテーマにした優れた絵画に対して賞を授与されました。これは、より安全で強靱な未来を築くために、若い世代を巻き込むことの重要性を浮き彫りにするものとなりました。



集合写真



イベントの様子

NFFIS(コンボ)/MEFFIS(モンテネグロ)拡張完了！



NFFISおよびMEFFISの拡張が完了したことは、国家的な災害リスク管理能力の強化における重要な節目となります。この度の機能強化により、洪水や地震の情報提供・収集機能が新たに導入されたほか、国家リスクデータベースが取り込まれ、さらにNFFISにおいては地域固有のリスク要因に対応するため地滑り情報提供・収集機能も組み込まれました。これにより、関係機関が重要な情報をタイムリーに収集・分析・共有する能力が向上し、より組織的かつ効率的な緊急対応の実現に貢献しています。

今後も両システムの機能をさらに強化・拡大し充実させるため、継続的な技術改善とシステム更新を計画しており、次回の更新ではシステムの信頼性、ユーザーの利便性、データ統合の向上に焦点を当てることで、NFFISとMEFFISが災害リスク軽減とレジリエンス構築に向けた強固で適応性の高いツールであり続けるよう取り組んでいきます。

カウンターパートへの活動引継 (雪崩防止林)



2025年9月、シャリ山脈国立公園およびコソボ森林局（KFA）のカウンターパート（CP）と共同で、雪崩防止林におけるモニタリング活動が実施されました。現場でのデータ収集に加え、屋内でのデータ分析・管理に関する技術指導も行われました。これにより、CPは自分たちでモニタリング活動を行うための一連のスキルを習得しました。

また、ドラガシュ自治体、国立公園、KFAの間で、覚書が締結されました。今後は国立公園とKFAが技術的なモニタリングを担当し、将来の補修といった維持管理費用はドラガシュ自治体が負担することが合意されました。

ドラガシュ自治体は、この覚書締結を通してプロジェクトサイトのあるレストリツェ村の安全確保に努めることを表明しました。



現場研修（データ収集）



室内研修（データ分析）



覚書への署名－ドラガシュ自治体

防火帯の完成



「火災跡地植生回復（PFVR）」活動の一環として、森林火災の予防および火災後の復旧活動を支援するため、モンテネグロ北部コラシンの丘に防火帯道路が建設されました。この道路は地元企業によって建設され、技術的・環境的基準への適合を確実にするため、プロジェクトチーム、コラシンRPD、森林・狩猟管理総局、およびNGO「Natura」が監督を務めました。

道路は全長約1,900メートル、幅員4メートル以上におよび、火災管理や緊急対応のためのアクセス性が向上しています。



防火帯および消火アクセス道

合同調整委員会の開催およびプロジェクト期間の延長



2025年12月3日、第6回合同調整委員会（JCC）が危機管理庁（EMA）にて開催され、局長が議長を務めました。会議にはJICAバルカン事務所所長および職員、ならびにコソボ森林局（KFA）、コソボ水文気象局（KHMI）、EMAの職員らが出席しました。

コソボと同様に、モンテネグロにおいても12月2日にポドゴリツィアにおいて第6回JCCが開催され、プロジェクトマネージャーが議長を務めました。

会議では、プロジェクトマネージャーおよびJICA専門家チーム（JET）によってプロジェクトの成果が発表されました。また、国家森林火災情報システム（NFFIS）の機能強化を達成するため、プロジェクト期間を2026年10月まで延長することが提案されました。

今後、プロジェクトはNFFISの改善、Eco-DRRモニタリング、および啓発活動を継続してまいります。

成果毎の活動サマリー

コソボ 成果1

- NFFIS拡張の完了

モンテネグロ 成果1

- MEFFIS拡張および地域FWI開発の完了

コソボ 成果2

- Eco-DRR モニタリングの実施

モンテネグロ 成果2

- Eco-DRR モニタリングの実施
- 防火帯の完成



フォローしてください！

プロジェクト Facebook
<https://www.facebook.com/WestBalkanNFFISandEcoDRRProject>



コソボ内務省危機管理庁
Emergency Management
Agency (EMA)



モンテネグロ内務省
保護救助局
Rescue and
Protection
Directorate (RPD)



国際協力機構
Japan
International
Cooperation
Agency (JICA)